

1972.2.5 西村文利

新聞記事の「X」

むくげの会

「これを社会に様々なグループと連携をとりたい……」などと考える一月×日、取材にむいた。

約一時間、お田さん(アニーの小説ライター)に話をもとに書いてもらい、それをもとに書いてもらった。

記事を読んで感じたこと
1. 「むくげの会」とは、イ・X・Jが中心になっている。お田さんは「朝鮮語の母音」がめざらうと下した。お田さんが書いた

(5) タ

昭和47年(1972年) 2月5日 (土曜日)

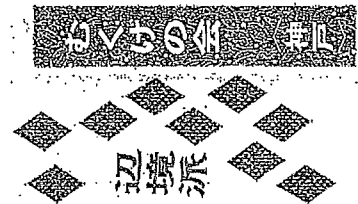
三

三

三

三

だが、歴史的な文脈を無視して、朝鮮語の母音を「むくげの会」として、お田さん(アニーの小説ライター)に話をもとに書いてもらい、それをもとに書いてもらった。

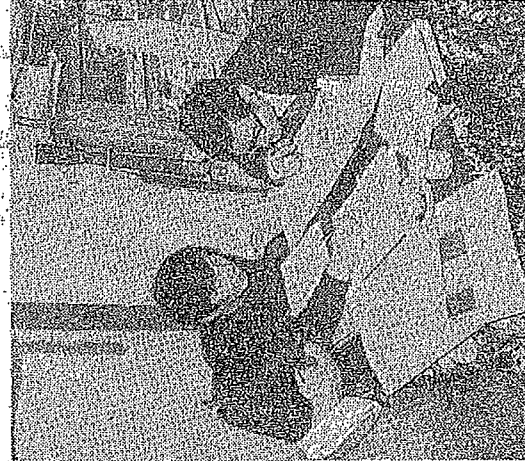


「むくげの会」は、お田さん(アニーの小説ライター)に話をもとに書いてもらい、それをもとに書いてもらった。

朝鮮の姿を知りたい

原書を前にゼロから出発

朝鮮の姿を知りたい。原書を前にゼロから出発。お田さん(アニーの小説ライター)に話をもとに書いてもらい、それをもとに書いてもらった。



朝鮮問題をめぐって、お田さん(アニーの小説ライター)に話をもとに書いてもらい、それをもとに書いてもらった。

お田さん(アニーの小説ライター)に話をもとに書いてもらい、それをもとに書いてもらった。

1. 「むくげの会」とは、イ・X・Jが中心になっている。お田さんは「朝鮮語の母音」がめざらうと下した。お田さんが書いた

2. 記事中「歴史的な文脈を無視して、朝鮮語の母音を「むくげの会」として、お田さん(アニーの小説ライター)に話をもとに書いてもらい、それをもとに書いてもらった。

3. 他に「漢字」として、お田さん(アニーの小説ライター)に話をもとに書いてもらい、それをもとに書いてもらった。

お田さん(アニーの小説ライター)に話をもとに書いてもらい、それをもとに書いてもらった。

市民のくみ

本社社会部

1978.7.13 补

朝鮮語勉強の
「むくげの会」

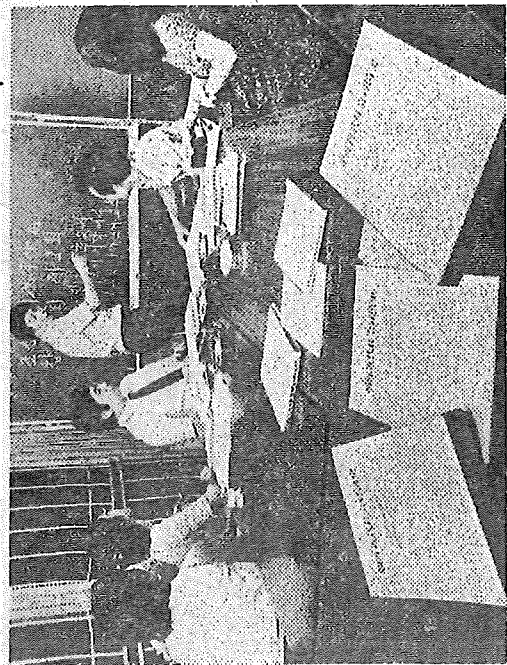
専門書を日本語に翻訳出版

類書に近代経済史

「最近の國情を知らん」

市岡は、朝鮮語のいろはから勉強を続けてきた主婦、OJ、金桂蘭さんのグループが三年かかりで終稿中の専門書を調査して出版した。金鶴英・金鶴美共著の『朝鮮近代社会語彙』（龍溪書舎、三千三百円）で、これまでも日本の朝鮮近代史研究に調査がなげさらに調査から高く評価されている。

編集、出版したのは「ついでに 山田町三ノノ一、神戸宗生書庫
会」（飛田雄二代表、神戸市灘区 センター内）の会費たち。同会は



「國片は國產のものがよい」

と十年前の土庫に溜まっていた民
グループ。連日戻ってきた朝鮮語
の勉強から朝鮮の歴史まで勉強し
続けました。これまで 朝鮮の家
族制時代は開国など紹介する方
り歴史の機軸が「ひとと地」
を軸に 朝鮮の友好を紹介しつ
てきました。

「朝鮮近代史叢書」は、も
ろくに 歴史を勉強する教材とし
て使っていたが、三年前「朝鮮の
歴史書はあまりにも少ない」と
の感想を、朝日と出版するこ
とを案じた。××は、三十歳
前後の言語、文学、会話、西洋
かなを原書と対照して分類。
七八冊と題して五人が校正し
るが、漢文統一、格調を漢門

朝鮮の経済史の専門書を翻訳、出版した市底グループ「むくげの会」メンバーたち（瀬区、神戸、豊田、高年七ノ宮一）

の梶村秀樹・神奈川大学助教授が
手伝って、出版にこぎつけた。翻
訳に時間のかかる図表だけでなく百
八十九枚を盛り込んだ。三百三十
一ページの厚い本。同助教授からも「専
門家向けだけでなく、日本の近代史

研究者や朝鮮問題に関心を持つ多
くの人の促立つと感づくと、本誌刊
行を期している。

「校正を」目が疲れてしまつた。新聞を眺むにも眼字が「まじなる」「目分がかりを効ると」手は震れるが、いつもの體操になつた。なごきと氣持は出版までの苦勞なかりなる。それだけ、千五百部の少女出版は盛衰。飛田代表は「朝雄アー」といわれたるが、朝雄の屋敷前では、これまで定書はなかつた。送たものの朝雄が今よりも朝雄作家のまじりになつたと見て、幸甚、一般の人々も極度に感ぜられらるるまじり、」といふ。

朝日新聞

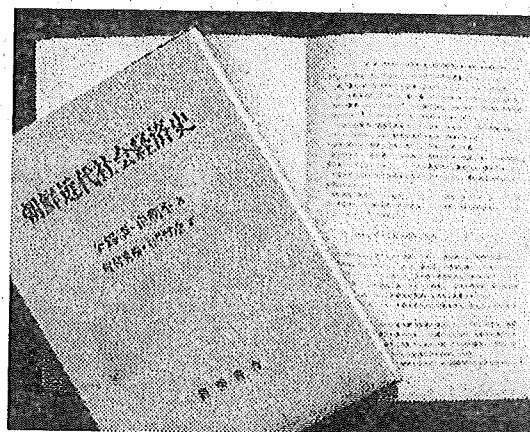
発行所
朝日新聞大阪本社
大阪市北区中之島3丁目2番4号
郵便番号 530
電話 大阪(06)231-0131番
郵便振替口座 大阪 550番
© 朝日新聞大阪本社 1978

きょう32ページ

幻の朝鮮史を翻訳(22回)

- 2 面(絵巻) 沖繩、押しつけの歴史再び
- 3 面(絵巻) 主婦らに広がる覚えい刑禍
- 4 面(国書) 非同盟分裂の危機浮き彫り
- 6・7 面(経済) 過熱円高、週明けが正念場
- 13 面(家庭) 音のない世界からの投稿
- 16 17 面(文壇) 逆転で天理、3連続京都商
- 22 23 面(社会) シェルバの子に学校再建を
- 11 面(特稿) 華国録氏の路線へ動く中国
- 15 面(特稿) 被爆者援護へ高まるうねり
- 12 面(面談) 面さんサンデー

幻の朝鮮史独学で翻訳出版



市民たちが二年がかりで翻訳出版した『幻の本』。「朝鮮近代社会経済史」

状態を描いた通史。植民地朝鮮の近代化や民衆の姿を知る上で、いまでも最も優れた書物とされている。が、出版された当時は日本の朝鮮史研究は少なく、入手もむずかしく研究書はコピーでこれを読みついでいた。

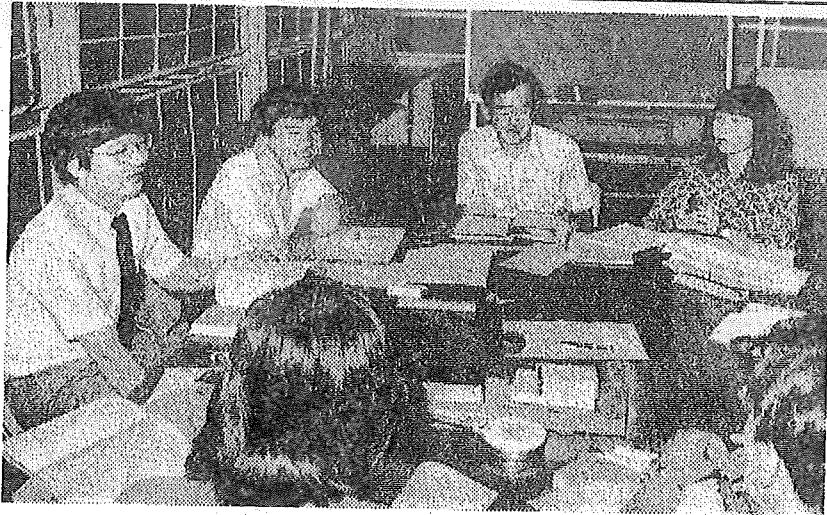
訳したのは、箕面市桜井二丁目 大学事務員森川展昭さん(52)

森川さんは「朝鮮問題に関心を抱いた人々には、過去の日朝関係を知る入門書になるのではないかと話している。

朝鮮近代史・歴史専門の大阪市立大講師・森川(カシ)・ジェオン(カシ)さんの話、日本の教育体系のなかには、朝鮮の全体像を理解しようとする姿勢が欠落しているが、むくげの会は、朝鮮の言葉、歴史、風俗習慣を自ら学ぶことを通じてその欠落部分を埋めている。市民が、ち密に、しかも地道に活動をした結果、専門書を翻訳できるまでに成長したことは、画期的なことだ、一歴史家として敬慕される思いだ。

週一回集まって勉強会を開く「むくげの会」会員たち

(神戸市灘区山田町三十目の神戸学生青年センターで)



「京阪神の市民グループ」

民衆の姿浮き彫りに

朝鮮語を学び、朝鮮の歴史を知ろうと約七年前から地道な活動を続けてきた市民グループ「むくげの会」(連絡先・神戸市灘区山田町三十目 神戸学生青年センター)が、朝鮮史研究者の間で『幻の本』といわれていた専門書を二年がかりで日本語に翻訳、熱意を燃やした翻訳書(東京)が出版を快請、「朝鮮近代社会経済史」としてこのほど出版した。A

5割三百三十六ページ。専門学者でも朝鮮語を讀みこなせる人がそう多くないなかで、独学に近い形で市民がやり遂げた業績に朝鮮史家の間で賞賛がもたらされている。

この本は、金錫淡、崔潤善両氏の共著「九世紀後半期一日帝統治末期の朝鮮社会経済史」で、一九五九年に朝鮮民主主義人民共和国(北朝鮮)で発行された、一八七六―一九四五年の朝鮮の経済

るなど荒々しく訳してこのほど、むくげの会と機軸助教授共訳としてやつと世に出た。

むくげの会ができたのは昭和四十五年十月。中心的なメンバーは現存する。むくげの会が講師になって朝鮮語講座を開いた人権問題にも目を向けて在日朝鮮人の政治犯救済など幅広く活動している。

森川さんは「朝鮮問題に関心を抱いた人々には、過去の日朝関係を知る入門書になるのではないかと話している。

朝鮮近代史・歴史専門の大阪市立大講師・森川(カシ)・ジェオン(カシ)さんの話、日本の教育体系のなかには、朝鮮の全体像を理解しようとする姿勢が欠落しているが、むくげの会は、朝鮮の言葉、歴史、風俗習慣を自ら学ぶことを通じてその欠落部分を埋めている。市民が、ち密に、しかも地道に活動をした結果、専門書を翻訳できるまでに成長したことは、画期的なことだ、一歴史家として敬慕される思いだ。

韓国のベストセラー社会小説

国境越え違帯の自費出版

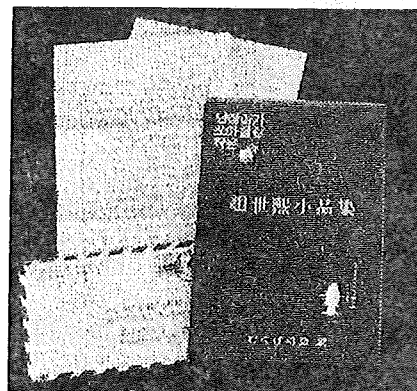
朝鮮の歴史と朝鮮戦争九年前から学んでいる神戸の市民グループ「むくげの会」(港区山田町三丁目、神戸学生青年センター内)が、韓国のベストセラーの社会派小説を翻訳し、自費で出版した。十二日には、書影から感じがない感謝の手紙が届いた。同会では「おもしろい小説なのでこれでも読しめろ」と思う。これがきっかけになって、偏見の多い日本人の朝鮮観が少しでも変わればうれしい、といっており、在日朝鮮人作家や朝鮮文学研究者は「市民の地道な勉強が生んだ成果」と高く評価している。

神戸の市民グループ

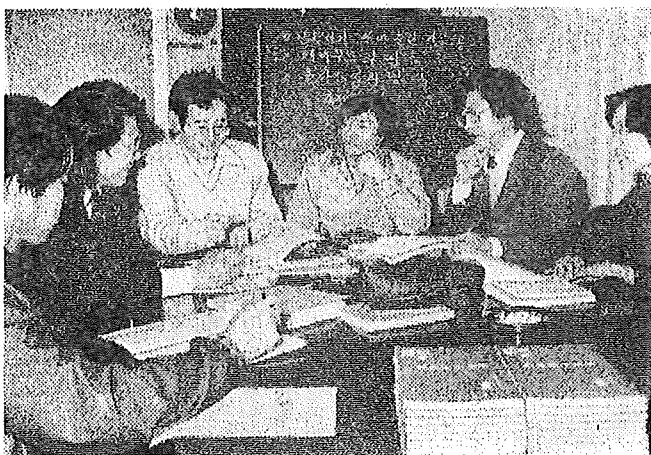
独自学習で翻訳

「韓国歴史小説集」A5判、百六十一ページ、七頁、底辺労働者の生活を描いており、韓

国では出版後一年半で二十万部も売れた。「韓国の井川賞」といわれる市民文芸賞を受けた。著者の



「むくげの会」が出版した「韓国歴史小説集」と著者から届いた手紙



韓国のベストセラーを翻訳、出版した「むくげの会」の人たち(神戸市港区山田町三丁目、神戸学生青年センターで)

編、同じく韓国で活躍している作家の作品を収録した韓国版の「むくげの会」の例を向けていった。

毎週一回の「むくげの会」の例会でこれらを通じて翻訳し、本にしよう、との声が上がった。

資金は会員十人から集めたのだから月千一万円を出し合うことにした。五十二年中に四冊を出版

高用紙四百枚の原稿ができた。年

末から翌年にかけて他の会員も加わり、毎日曜日、二十種近い辞典

類を持ち寄って訳文を繰り返した。下宿のみなさんとか、職場の

仕方など韓国独特の風俗、生活習

慣など、前編だけでは分りにくいところも多い。韓国へ留学して

いた在日韓国人の友人らに教えてもらった。こうして翻訳は一年前

には完成。昨年三年がかりでやっと十万人に達し、出版にこぎつけた。

三月下旬、刷り上がった訳書を、ソウルにある原書の版元経由で韓国に送った。これに対して十二日、返事が届いた。「取材を兼ねた旅行をしていて釜山に戻って来たばかり」と前置きして、「翻訳に苦労された方々に感謝します。私たちは異なった国に生まれ、育ってきたために、多くのことと互いに違った考え方を抱えているだろうが、信じの世界ではなく、互いの世界を求めているという点では同じだと信じています。神戸の若いみなさんが、立派な人間として成長されることを祈っています」との内容。原稿用紙一枚を、きちようめんな字体のハンダで、びっしりと綴っていた。

「むくげの会」の会員は二十代後半から三十代の人たち。団体職員、大学教員など職業はさまざま

あり、むくげの会の人たちの勉強ぶりには驚いている。

神々

世直し82

いま私たちにできること

<2>

最も近くにあるが、あて、平和統一を願う、双方の映る意味では最も遠い国。

「韓国」「朝鮮」と聞くだけ 一回の定期会合場所、神戸で、私たちの心の中のことか 学生青年センター(神戸市)で、身構えることがないだろう 区の一室から、伸びやかな朝鮮の歌声が響く。会員の一人、山根俊郎(30)の歌う新民謡「国家間のキス」した関係は、人、山根俊郎(30)の歌う新民謡

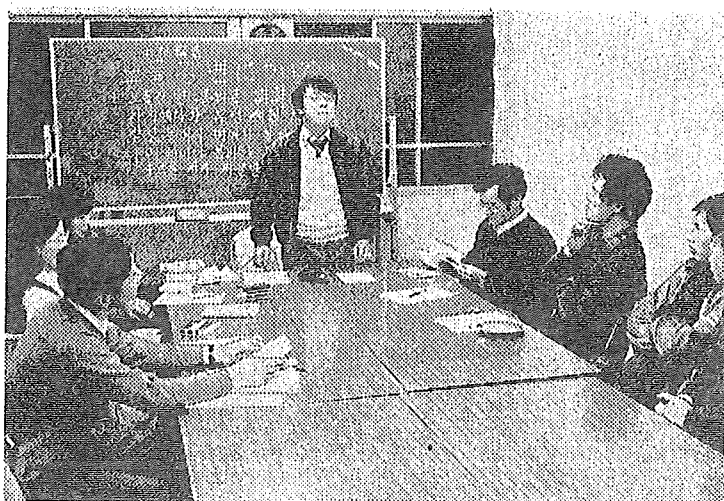
歩くカラオケ

上、日常、身の回りにいる人たちに抱く日本人のわだかまりが、心にべったりとまつわりついていないだろうか。この「心の脂肪」をそぎ落として血の流れをよくし、濁りのない目で、つきあいたい——そんな願いを持つ「むくげの会」が発足してから十年がたった。淡い紫やピンク、白の花を咲かせる韓国の国花を名前に冠せたこの会は、七〇年の大学紛争当時誕生した。いつも会員は十人前後。細い茎ながら着々と根を張ってきた。へ平遠運動に加わった学生が中心だった。い、当初は「入管法紛争」を叫び街頭デモを行ったが、今では女性三人を含め三十歳前後の九人が朝鮮研究を深めている。「南」と「北」に等距離を置く

歌を通して心つかむ

自分のテーマを選び毎週交代で発表するが、朝鮮の農民運動、家族制度、ハンゲル史、三・一事件、民族主義運動など、幅広いテーマが大半。そのなかで山根が選んだテーマは「朝鮮の歌謡曲の流れ」。唯一の歌謡曲だ。「どこか、ほく言から歌が好きだったんですね。歌といっても歌謡曲ばかり。歌を通して大衆の心をつかんでみたいとい

平和統一願って朝鮮研究



「歌を通して日本人の差別観をなくしていければ」——流ちょうな朝鮮語で歌声を張りあげる山根俊郎

った。なんや、えらい違やないか、なんで日本に知られてないかなあ」と疑問に感じ、帰ってから朝鮮の本、片々端々読んで「強烈な好奇心に燃え、なんだ」。強烈な好奇心に燃え、学生青年センターで開かれた朝鮮語講座を受け、一年後「むくげの会」に入った。「むくげの会」に入ると、そこは勉強にもなるからと始めた朝鮮語の勉強の「レコード集め」も、今では三百数十枚にもなる。「昨年はわざわざ韓国へ買いつけに行き、リュック、両手のカバンに百枚ものレコードを詰め込み、税関や名古屋に呼ばれ「同胞おめでとう」何の商売するんだ」といわれた。今では多々カラオケと自称する。四、五曲は入らず、けでなく文化も輸出超過。「カスマン」(胸の痛み)「イビ文化、歴史を知ることが「仲良し」になる手始めだと思ってい

(敬称略、つづく)

1982.12.18 四書新聞

朝鮮民衆との連帯志向

病めるアカデミズム癒す快拳

梶村秀樹

(四書新聞 一九八二年十二月十八日)

たにも少しは違っているのではなからうか。

定期的に九紙面に送られてくる手づくりの機関誌『むくげ通信』はすでに七五号に達するが生活苦の寒気が伝わってきて嬉しい。ちよつとよきにすぎた本書

は、いわばそのエッセンスなのである。収録されている論文を列挙すれば、堀内雄二「一九三〇年代・朝鮮共産党の再建運動」、飛田雄一「水原農民組合の展開——一九三〇年代の赤色農民組合の事例」、鹿嶋節子「金元國の思想と行動」、森川展昭「朝鮮語学会の語文運動」、山根俊郎「日帝下の朝鮮語語源史」、八巻貞枝「戦前の神戸市における朝鮮人生活実態調査について」、道淵信雄「朝

鮮の家族と同族——李朝中・後期を中心として」の計七篇で、個々の論文の内容に「々々」を添えている。これは、突然な着想をひけらかすというのではなく、どれもむしろ論旨はおおむね詩美でオーソドックスである。

一見するとそれぞれのテーマはばらばらで雑然としているように見えるけれども、よく読んでみれば通底する問題意識があることがわかる。それはおそろしく、いわゆる日韓民衆連帯運動から在日朝鮮人の生活と人権を争う諸運動まで幅広くかわりをもち関心をもち、また中で生じた問題意識であり、別の表現でいえば、三〇年代以降今日まで苦難の中を生きぬいてきた朝鮮民衆への連帯志向すくく好論文である。

むくげの会編

朝鮮一九三〇年代研究

本書はただの専門書ではない。知る人ぞ知る神戸のむくげの会は、一九七一年に市民運動の中から生れ、日本人として朝鮮民衆の生き生きとしたイメージを自らのものとしたアカデミズムから疎外されてきた朝鮮史の領域だからやりやすかつたといえるかもしれないが、こういふ快拳が他の領域でもこんな

成されたなら、病めるアカデミ

志を貫徹してきた。

志を貫徹してきた。

志を貫徹してきた。

志を貫徹してきた。

(朝鮮近代史)

朝鮮研究の「むくげの会」

神戸新聞 1982年12月28日

神戸学生センター拠点に 学習や支援活動11年

むくげの会」は会社員、公務員、自営業、主婦ら十二人のグループで「在日朝鮮・韓国人の問題は日本人の問題」との観点から、学習活動のほか金支河事件や外人登録の指紋拒否問題などで支援、救済活動を行ってきた。

「むくげの会」は会社員、公務員、自営業、主婦ら十二人のグループで「在日朝鮮・韓国人の問題は日本人の問題」との観点から、学習活動のほか金支河事件や外人登録の指紋拒否問題などで支援、救済活動を行ってきた。七〇年に神戸でベ平連運動をやった連中を中心に「差別抑圧研究会」ができ、米解放部落や沖で抵抗運動を激化した花だといふ。同会について、会員の一人・森川展昭さん(三九)大阪経大図書館勤務)に聞いてみた。

「むくげの会」は会社員、公務員、自営業、主婦ら十二人のグループで「在日朝鮮・韓国人の問題は日本人の問題」との観点から、学習活動のほか金支河事件や外人登録の指紋拒否問題などで支援、救済活動を行ってきた。

「むくげの会」は会社員、公務員、自営業、主婦ら十二人のグループで「在日朝鮮・韓国人の問題は日本人の問題」との観点から、学習活動のほか金支河事件や外人登録の指紋拒否問題などで支援、救済活動を行ってきた。

「むくげの会」は会社員、公務員、自営業、主婦ら十二人のグループで「在日朝鮮・韓国人の問題は日本人の問題」との観点から、学習活動のほか金支河事件や外人登録の指紋拒否問題などで支援、救済活動を行ってきた。

「むくげの会」は会社員、公務員、自営業、主婦ら十二人のグループで「在日朝鮮・韓国人の問題は日本人の問題」との観点から、学習活動のほか金支河事件や外人登録の指紋拒否問題などで支援、救済活動を行ってきた。



発足10周年記念に出版した「朝鮮一九三〇年代研究」(三一書房刊)

「むくげの会」は会社員、公務員、自営業、主婦ら十二人のグループで「在日朝鮮・韓国人の問題は日本人の問題」との観点から、学習活動のほか金支河事件や外人登録の指紋拒否問題などで支援、救済活動を行ってきた。

「むくげの会」は会社員、公務員、自営業、主婦ら十二人のグループで「在日朝鮮・韓国人の問題は日本人の問題」との観点から、学習活動のほか金支河事件や外人登録の指紋拒否問題などで支援、救済活動を行ってきた。

論文集を記念出版

学者も高く評価する内容

年代研究」は、朝鮮研究で知られる大阪市大の泰在彦講師も高く評価しているが、出版は「朝鮮近代社会経

年代研究」は、朝鮮研究で知られる大阪市大の泰在彦講師も高く評価しているが、出版は「朝鮮近代社会経

組合、共産党運動、朝鮮歌謡などへの弾圧と抵抗史、戦前の神戸市の朝鮮人生活実態など七編で構成している。日本が植民地化した一九一〇年から四五年は、日朝にとって重苦しい時期で、とりわけ三〇年代は戦後の朝鮮を形づくる峠のような時代。日本人として関心の度合いも強い。と。ろがまた十分に研究されていもない。朝鮮関係の研究態勢そのものが貧しく、私たちがアマでも活動できる分野があったというところだ。

「むくげの会」は会社員、公務員、自営業、主婦ら十二人のグループで「在日朝鮮・韓国人の問題は日本人の問題」との観点から、学習活動のほか金支河事件や外人登録の指紋拒否問題などで支援、救済活動を行ってきた。



「朝鮮一九三〇年代研究」の出版記念と発足10周年を祝う「むくげの会」のメンバー。左端が森川展昭さん＝神戸学生センターで

「むくげの会」は会社員、公務員、自営業、主婦ら十二人のグループで「在日朝鮮・韓国人の問題は日本人の問題」との観点から、学習活動のほか金支河事件や外人登録の指紋拒否問題などで支援、救済活動を行ってきた。

「むくげの会」は会社員、公務員、自営業、主婦ら十二人のグループで「在日朝鮮・韓国人の問題は日本人の問題」との観点から、学習活動のほか金支河事件や外人登録の指紋拒否問題などで支援、救済活動を行ってきた。

「むくげの会」は会社員、公務員、自営業、主婦ら十二人のグループで「在日朝鮮・韓国人の問題は日本人の問題」との観点から、学習活動のほか金支河事件や外人登録の指紋拒否問題などで支援、救済活動を行ってきた。

「むくげの会」は会社員、公務員、自営業、主婦ら十二人のグループで「在日朝鮮・韓国人の問題は日本人の問題」との観点から、学習活動のほか金支河事件や外人登録の指紋拒否問題などで支援、救済活動を行ってきた。

「むくげの会」は会社員、公務員、自営業、主婦ら十二人のグループで「在日朝鮮・韓国人の問題は日本人の問題」との観点から、学習活動のほか金支河事件や外人登録の指紋拒否問題などで支援、救済活動を行ってきた。

「むくげの会」は会社員、公務員、自営業、主婦ら十二人のグループで「在日朝鮮・韓国人の問題は日本人の問題」との観点から、学習活動のほか金支河事件や外人登録の指紋拒否問題などで支援、救済活動を行ってきた。

「むくげの会」は会社員、公務員、自営業、主婦ら十二人のグループで「在日朝鮮・韓国人の問題は日本人の問題」との観点から、学習活動のほか金支河事件や外人登録の指紋拒否問題などで支援、救済活動を行ってきた。

「むくげの会」は会社員、公務員、自営業、主婦ら十二人のグループで「在日朝鮮・韓国人の問題は日本人の問題」との観点から、学習活動のほか金支河事件や外人登録の指紋拒否問題などで支援、救済活動を行ってきた。

「むくげの会」は会社員、公務員、自営業、主婦ら十二人のグループで「在日朝鮮・韓国人の問題は日本人の問題」との観点から、学習活動のほか金支河事件や外人登録の指紋拒否問題などで支援、救済活動を行ってきた。

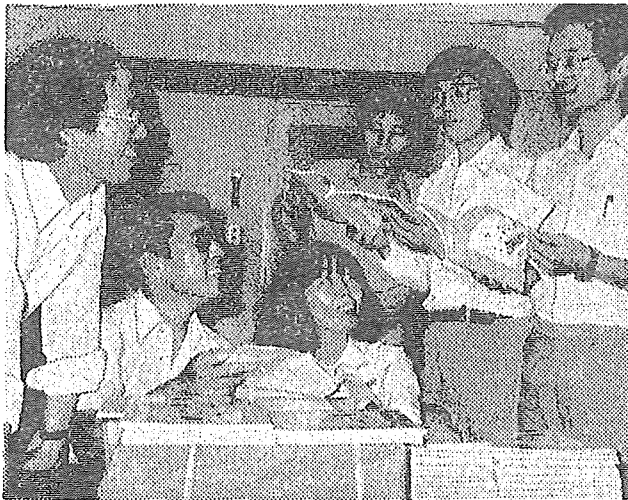
「むくげの会」は会社員、公務員、自営業、主婦ら十二人のグループで「在日朝鮮・韓国人の問題は日本人の問題」との観点から、学習活動のほか金支河事件や外人登録の指紋拒否問題などで支援、救済活動を行ってきた。

火曜ストリート

隣の国を知って

神戸の韓国・朝鮮の歌集作る

できあがった「愛唱歌集」を手に話し合う「むくげの会」会員たち
 神戸市灘区山田町の神戸学生青年センターで



時代背景込め107曲

韓国と朝鮮の民謡、童謡から歌謡曲まで網羅した歌集がわが国で初めて刊行された。近くて遠いといわれる隣国のことはや歴史を勉強するため四十六年に学生、会社員、主婦らで結成

「むくげ」は花の名。韓国や朝鮮の人に愛され、韓国では園花になっている。編纂の中心になったのは、市役所職員山根俊郎さん(三三)、業界紙記者堀内総さん(三三)、大学図書館職員森川展昭さん(四二)ら。
 韓国や朝鮮で刊行された歌集や音楽の教科書を三年前から収集。今もよく歌われることを主な基準に百七曲を選んだ。解説は手分けしてワープロで打ち、レイアウトも自分たちで。印刷、製本は業者に頼んだ。費用は全額、会費でまかなった。
 歌は時代や分野によつて①民謡

し、神戸市灘区山田町の神戸学生青年センターを拠点に活動が続ける「むくげの会」(飛田雄一代妻の自費出版。在日朝鮮人の詩人金時鐘さんは「心の架け橋になつてくれ」と願う」と評価している。
 題は「むくげ愛唱歌集」。

①「アヒラン」「ユラジ」など二十曲②日本の植民地時代の大衆歌謡(「木浦の涙」「連絡船は出て行く」など十曲)③韓国の大衆歌謡(「カスマブゲ」「帰れ金山港に」など三十三曲)④童謡(「半月」「まだらの小牛」など十四曲)⑤歌曲(「行きたち」「鳳仙花」など十四曲)⑥朝鮮の歌(「景色もいいし暮しもいい」「アヒラン」に添える乙女」など十三曲)⑦に分類。全曲を音譜と原語の歌詞で紹介したうえ、各曲ごとにその意味、作詞・作曲家をめぐるエピソード、作られ歌われた時代背景などを百五十字前後で解説している。
 編集しながらわかつたのは、別れや故郷をテーマにした歌が多かった。歌詞の直接的な意味はともかく、日本の植民地政策や解放後の朝鮮戦争で、愛する人や故郷から引き裂かれた悲しみを歌に託したのでは、と会員たちは思う。韓国の歌謡曲に詳しい作詞家もす嶋平さんは「歌は国境を越えられる。すばらしい企画だ。ただ、韓国ではまだ日本の歌を公然とは歌いに

くい雰囲気がある。我々日本人に歴史的な責任があるため、隣国の人たちに代わりを解いてもらう努力をさらに続けねばならない」と話している。
 「むくげ愛唱歌集」はA5変型判、百二十六。定価八百円。地方小出版流通センターの扱いで、全国の書店で発売中。



朝鮮研究誌
「むくげ通信」

神戸で発行されている朝鮮研究誌「むくげ通信」が、今月末、通算百号の記念誌を出す。足かけ十七年。かつて「ベ平連(ベトナムに平和を、市民連合)」「小田代表」運動の中でアジアに目を向けた若者たちが、途切れることなく営々と出し続けてきた。今、中年の域にさしかかったメンバーは、公務員や業界誌記者ら八人。「抑圧される側」に立った視点と息の長さが評価され、今や北海道から九州にまで読者を持つ「ミニ全国誌」だ。

神戸発の「ミニ全国誌」に

質の高い活動で定評



発行しているのは「むくげ通信」。翌年一月、テーマを朝鮮の会(事務局・神戸市灘区山田町三、神戸学生青年センター内)。昭和四十年代前半に大きな盛り上がりを見せたB5判、二十八頁の「むくげベ平連運動に参加した学生や通信」を、きっちり隔月刊で若い社会人たちが、四十五年に「差別抑圧研究会」を結

度などの社会学、労働、農民運動史、そして現在の歌謡曲年間購読料千五百円。

隔月刊で17年

今月下旬に記念号
張り切るメンバー

一〇〇号記念誌発行の準備をする「むくげの会」のメンバー(神戸市灘区、神戸学生青年センターで

にいたるまで、朝鮮文化に関することすべて。発足当初は言葉の習得や讀書会から始まったが、今では各自がテーマを持って研究発表している。五十七年には、同会編で「朝鮮一九三〇年代研究」(三書房刊)を出版するなど、学問的な水準でも評価は高い。

神戸大学の非常勤講師まで務めることになった、同青年センター主宰の飛田雄一さん(三つが世起役。毎週火曜日午後七時、メンバーは同センターに欠かさず集まってくる。百号は、二十五日の発行に向けて、いま編集作業の真っ最中。全国の朝鮮問題研究者らから寄せられた声や、過去の総目次、会員八人の「原点をみつめて」と題した文章などが特集される。同通信は、

1987. 2. 19. 朝日

87. 2. 19.
Fnh

「むくげ通信」100号に

韓国・朝鮮
問題を研究 定期講読者も550人

韓国・朝鮮の歴史や文化を研究する市民グループ「むくげ通信」(飛田雄一代委員長、神戸市灘区・神戸学生青年センター内)の機関誌「むくげ通信」がこのほど、百号に達した。「南」と「北」の対立が持ち込まれがちで、総合的な研究が手薄だった近代史に取組む、「素証的」で水準も高い、自由な市民の立場だから「むくげ」と、評価されている。

同会は四十六年一月、ベ平連活動に加わった阪神間の学生を中心に発足した。反戦運動を通じて、国内の差別、さらに韓国・朝鮮問題に目が向いたからだ。メンバーは民衆の生活も重視し、年中行幸や歌謡曲にも取り組んだ。素証主義を心がけ、「南」「北」の新聞や学術論文を丹念に集めたほか、在日韓国・朝鮮人の体験も克明に聴いた。一方で神戸学生青年センターと協力し、朝鮮語入門講座や朝鮮史セミナーを開いてきた。通信は週刊誌大で、金の活動を記録し、ほぼ二ヶ月に一回、発行してきた。定期読者は今、北海道から九州まで約五百五十人にのぼる。神戸川大学の梶村秀樹教授(アジア経済論)は「学界で十分に通用する内容。とくに民俗など、朝鮮研究のすそ野を広げた意義は大きい」と話している。

「むくげ通信」発送に追われる会員たち

神戸市灘区山田町の神戸学生青年センターで



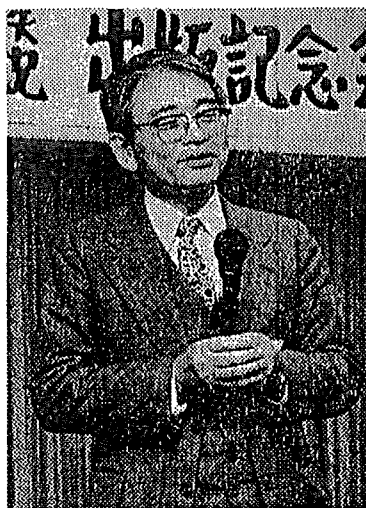
をやる」「最後まで責任を持つ」。こんな原則と、義足後間もなく活動拠点を提供してくれたセンターの理解が、会を支えてきた。

会員は会社員、主婦ら八人。一時増えたが、今は義足時と同じ数に。うち四人は当初からのメンバーだ。研究が深まるにつれ、若い人が入りにくくなる心配が出てきた。飛田代表は「専門化の迷路に入り込まず、一人でも関心のある人を増やす努力をしたい。隣国の理解は、友好のためだけでなく、現在の日本人自身を見つめ直すことにつながるから」と話している。

中国の朝鮮族地域紹介 次は短編小説集を計画

中国の朝鮮族集中居住地域の全容を紹介する「延辺朝鮮族自治州概況」の日本語訳「中国の朝鮮族」が完成、その記念会がこのほど、神戸市灘区の神戸学生青年センターで開かれ、訳者の早稲田大教授、大村益夫さん(金沢)と朝鮮近代文学専攻、写真家が、中国の学者らから祝詞を受けた。

原書は同自治州の執筆グループの手になるもので、自然、歴史、経済、文化などを体系的に網羅した初めての文庫。昨春まで一年間、初の日本人研究者として同自治州に滞在した大村さんが、帰国後ようやく全訳を完成。出版は、東京の



出版社から採算上の理由で断られたが、韓国・朝鮮の言語、歴史を学ぶ神戸の市民サークル「むくげの会」

との共同自費出版という形で実現した。

記念会で金道權・北京中央民族大学副教授は「延辺は中国に住む朝鮮族の心のふるさと。出版は日中友好の上でも意義が大きい」と述べる。大村さんは「次は、中国朝鮮族の生活や考え方を伝える短編小説集を翻訳出版したい」。



「中国の朝鮮族」はA5判、二百三十頁、二千八百円。問い合わせは「むくげ」(神戸学生青年センター)へ。078・861・2760。

ひと

ひと

ひと

人模様

•전국발행. 제533호

1988년 8월 30일 화요일

(음력 무진년 7월 19일)

길림성신문등록증2호발행번호 11-13

사장 겸 주필 리승영

조선민주주의인민공화국

(吉林朝鮮文報)

•인터뷰•

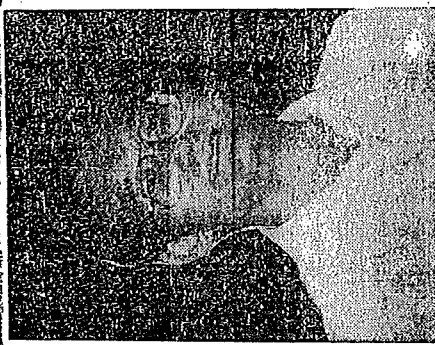
일본평의 《무궁화》

본사기자 리선근

금년에 37세되는 선생은 평평스름고 슬직하고 활달한 성격의 소유자였다. 서로의 인사가 끝난후 기자는 화제를 논의할 동경이다. 일본평의는 어느때 어떻게 되어 나을 그루빠인지요? 우리 무궁화는 1971년 1월에 조직되었습니다. 지금 이 그루빠의 창시자의 한사람이 있으시요? 《그럼 선생은 한층 열렬한 답변이 있었군요.》

《예, 그때 저는 대학에서 공부하였습니니다. 무궁화는 조선민족의 저항정신을 반증하는 아름답고 꽃다운 꽃입니다. 일본평의의 조선사람들에 대한 차별관념을 없애는 것을 사명으로 한 우리는 이 아름답고 꽃다운 《무궁화》를 창간하게 되었습니다.》

《예, 그대 저는 대학에서 공부하였습니니다. 무궁화는 조선민족의 저항정신을 반증하는 아름답고 꽃다운 꽃입니다. 일본평의의 조선사람들에 대한 차별관념을 없애는 것을 사명으로 한 우리는 이 아름답고 꽃다운 《무궁화》를 창간하게 되었습니다.》



수입된 기자는 일본에서 중일관계사 제6차학술회에서 참가하러 온 하다 유이찌선생을 만나게 되었다.

하다 유이찌선생은 일본 고베시의 고베대학에서 문학박사학위를 취득한 학자이다. 《무궁화》의 창간을 축하하며 《무궁화》에서 소개한 일본평의의 창간사를 읽어주었다. 《하다 유이찌선생은 일본 고베시의 고베대학에서 문학박사학위를 취득한 학자이다. 《무궁화》의 창간을 축하하며 《무궁화》에서 소개한 일본평의의 창간사를 읽어주었다.》

(자녀)
(교양)

우선 절음법을 잘 배우고 의식적으로 어휘를 넓혀서 읽어야 하며, 읽으면서, 이해하고, 생각하며, 표현하는 습관을 길러야 한다. 이것은 자라면서 자연스럽게 이루어진다.

어린애가 읽는 책은 독해능력을 갖기 위한 것이다. 읽는 습관을 기르는 것이 중요하다. 읽는 습관을 기르는 것이 중요하다. 읽는 습관을 기르는 것이 중요하다.

어린애가 읽는 책은 독해능력을 갖기 위한 것이다. 읽는 습관을 기르는 것이 중요하다. 읽는 습관을 기르는 것이 중요하다. 읽는 습관을 기르는 것이 중요하다.

어린애가 읽는 책은 독해능력을 갖기 위한 것이다. 읽는 습관을 기르는 것이 중요하다. 읽는 습관을 기르는 것이 중요하다. 읽는 습관을 기르는 것이 중요하다.

어린애가 읽는 책은 독해능력을 갖기 위한 것이다. 읽는 습관을 기르는 것이 중요하다. 읽는 습관을 기르는 것이 중요하다. 읽는 습관을 기르는 것이 중요하다.

최종판

자녀에게 보아야 할 10가지 습관

1988. 8. 30

이것이 바로 우리 민족의 전통입니다. 우리 민족은 오랜 역사를 통해 온갖 고난과 역경을 헤쳐나오며, 끝없는 투쟁과 희생으로 오늘의 영광을 이루었습니다. 우리는 이 전통을 계승하고, 이 영광을 후대에 물려줄 것입니다.

일본평의 창간사
일본평의는 민족의 단결과 단합을 위한 기관입니다. 우리는 이 기관을 통해 민족의 단결과 단합을 이루고, 민족의 영광을 이루겠습니다.

일본평의 창간사

일본평의는 민족의 단결과 단합을 위한 기관입니다. 우리는 이 기관을 통해 민족의 단결과 단합을 이루고, 민족의 영광을 이루겠습니다.

일본평의는 민족의 단결과 단합을 위한 기관입니다. 우리는 이 기관을 통해 민족의 단결과 단합을 이루고, 민족의 영광을 이루겠습니다.

고상한 녀

김 학 철

일본·고오베(神戸)시에 《무궁화회》라는 단체가 있다. 그 취지를 불작시면——

본회는 일본인들의 단체로서 조선(사람)에 대한 편견이 아직도 뿌리깊은 일본사회에서 이를 극복하기 위해 활동을 전개한다. 무궁화는 조선에 유명한 꽃으로서 일본식민지시대에 완강하게 끈질기게 벌어졌던 독립운동도 이 무궁화로 상징이 되므로… (이하 생략)

무궁화회에서는 정기적으로 매주 화요일마다 모임을 가지며 또 그 활동의 일환으로 격월간 《무궁화통신》을 간행하고있다.

무궁화회의 주사(책임일군) 히다 유이찌(飛田雄一)씨가 최근에 보내온 《무궁화통신》들을 받아서 읽어보고 나는 깊은 감명을 받았다.

알고보니 히다씨를 비롯한 무궁화회의 성원들은 모두 낡은 일본국민정신의 반역자들이었다.

일본이 지난날 조선을 강점하였던것은 전적으로 잘못이다. 죄악적이고 또 범죄적이다. 그런데 오늘에 이르러서까지도 조선사람을 차별대우하는것은 천부당만부당한 일이다.

이렇게 그들은 웨치고있는것이다.

《무궁화통신》은 일본제국주의의 조선강점을 폭로규탄하고 또 조선인민의 영웅적인 항쟁을 구가하는 글들로 가득차

있다.

특히 나를 놀라게 한것은 호리우찌미노루(堀内稔)씨의 《일제하 원산, 평양 지구에서의 무정부주의운동》이라는 글이었다.

나는 11살때, 원산로동회(적색로조)와 원산청년회(무정부주의자면맹)이 충돌하여 일대 탄투를 벌이는것을 목격한바 있다. 목격이라느니보다는 관전(觀戰)이라느니 더 나으리만큼 가까이에서 자초지종을 다 지켜보았다. 거기서 받은 인상이 어찌나 강렬하였던지 나는 50여년이 지나서 쓴 장편소설 《격정시대》에다 그 장면을 재현시키기까지 하였다. 《조시원》이란 실재인물의 이름은 그대로 밝혀서 쓰고 또 《김정희》란 실재인물의 이름은 《한정희》라고 고쳐서 썼다.

호리우찌씨의 글은, 11살 먹은 아이로서는 도저히 이해할수 없었던 그 충돌의 태맥(來脈)을——60년이 지난 오늘에 와서——내 눈앞에다 생생히 펼쳐놓아주었다.

무궁화회에서는 또 조선(사람)에 관한 서적들을 수태 출판하였는데 그중에는 와세다대학의 교수 오오무라 마스오(大村益夫)선생이 번역한 《중국의 조선족(연변 조선족자치주개황)》도 들어있다. 이 책은 호화판 양장제본으로서 그자체가 곧 정교한 미술품이다. 해서(該書)는 자비출판인대 역자인 오오무라선생과 무궁화회가

그 비용을 반반씩 나누어 부담하였다.

무궁화회에서는 경상적으로 조선말강좌, 조선사연구회도 가지며 또 조선에 관한 음악, 무용, 미술, 연극, 영화 등도 열세없이 소개, 전시, 공연하고있다.

일본·도쿄(東京)에는 또 《중소리회》라는 일본인들의 단체가 있는데 그 취지도 역시 무궁화회와 마찬가지로 조선(사람)에 대한 일본인들의 편견에 도전하는것이다. 중소리회에서 간행하는것은 《스크럼》이라는 월간잡지인데—스크럼이란 영어로서 여럿이 팔을 짝 끼고 뭉친다는 뜻이다.

전일 중소리회의 주요성원인 다까야 나기도시오(高柳俊男)씨에게서 《시사만화》에서 본 일본인의 조선인식이라는 저서를 증정받았는데 그 내용인즉 《스크럼》에다 12달동안 편찬한 계렬문장을 묶은것이였다. 65쪽의 시사만화들. 곁들인 그 문장은 글자그대로 일본인들의 그릇된 조선인식에 대한 채찍질이였다. 신랄한 채찍질, 사정없는 채찍질이였다.

특히 그중의 《독립운동을 적시하여 만들어낸 <불령선인(不逞鮮人)>상(象)》은 압권(壓卷)이였다. 《압권》이란 같은 책 가운데서 제일 잘 지은 글이라는 말이다. 나도 지난날 그런 《불령선인》의 하나였던 까닭인지는 몰라도—읽으면서 피가 끓어오름을 느꼈다.

다까야나기씨는 고등학교시절까지도 조선문제에 전혀 무관심하였었는데 대학시절에 우연히 호기심으로 계간잡지 《삼천리》를 구독한데서 인생항로가 급전을 하여 조선(사람)을 위해 분투, 헌신하게 되었다는것이다. 다까야나기씨는 현재 동경대학교에 재직하고있다. 그리고 《삼천리》는 일본에서 일어로 간행되던 진보적 조선인들의 종합잡지.

상술한 다까야나기씨와 히다씨는 다 조선말을 할줄 알고 또 조선글도 쓸줄 안다. 오오무라교수에 비하면 정도의 차이는 있을지 모르지만서도 아무튼.

그런데 여기서 특기할 점은 그들이 다 《밀지는 장사》를 하고있다는것이다.

《무궁화회》, 《중소리회》, 《무궁화통신》, 《스크럼》... 이들은 다 영리를 목적으로 하지 않는 순 봉사성적단체, 순 봉사성적간행물들이다.

오오무라선생은 제 노력, 제 돈을 들여가면서 우리의 《개황》을 번역출판하였을뿐아니라 당당한 대학의 교수님이 그 책들을 읽어지고 여기저기 팔러 다니기까지 하였다. 널리 퍼기 위해서였다. 우리 중국의 조선민족을 일본에다 널리 선전하기 위해서였다.

그렇다면 이들은 대체 무엇때문에 이런 먹줄알이 하나도 없는 일에 기꺼이 달갑게 종사들을 하고있는가.

더 말할것도 없이 그것은 숭고한 이상과 그에 따르는 신념의 문제일것이다. 신념이란 자신이 체득한 사상과 견해에 대한 굳은 믿음과 그것을 끝까지 실현하려는 강한 지향이 결부된 사상의식을 말하는것이다. 까닭없이 차별대우를 받는 사람들에게 대한 동정심, 부당한 처사를 하는 사회집단 및 위정자들에 대한 분개심, 그리고 정직한 인간으로서의 정의감... 이런것들이 그 직접적인 동기라고 보아서 틀림이 없을것이다.

이렇듯 고상한 녀를 지닌 이웃나라의 벗들을 우리가 어찌 뜨겁게 대하지 않을것인가.

미국이나 남아프리카에서 벌어지는 흑인들의 해방운동에 백인들이 가담하여 함께 싸우는 모습을 우리는 텔레비전의 형광판을 통해서도 다들 보았다. 그 백인들도 역시 고상한 녀를 지닌—인간다운 인간들인것이다. 오오무라, 다까야나기, 히다 제씨와 같은—인간다운 인간들인것이다.

자사자리한 비렬한들은 우리 이 지구의 주인으로 될수 없다. 고상한 녀를 지닌—인간다운 인간들만이 우리 이 아름다운 지구의 어엿한 주인인것이다.

88년 8월

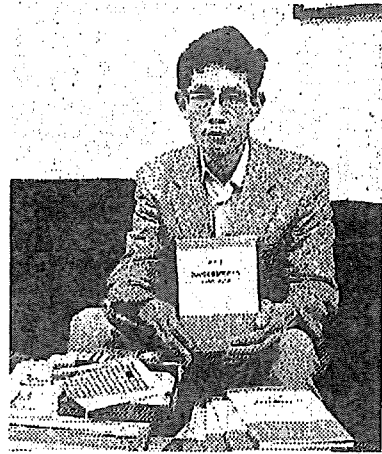
1989年(平成元年) 7月13日 (木曜日)

新 聞 豊 田 市 民

「GHQ文書研究ガイド」出版

市民グループ「むくげの会」

朝鮮史研究の叢書第1冊目



「GHQ文書研究ガイド」
を出版した金英達さん

朝鮮史を学ぶ市民グループ「むくげの会」は、会員らの研究をまとめたむくげ叢書(そうしよ)の出版を始め、第一冊目として、在日朝鮮人問題研究家の金英達さん(四〇)が戸田市潮見町三の(四)の「GHQ文書研究ガイド——在日朝鮮人教育問題」を発行した。

同会は結成十八年目で、会員は阪神間の市職員、大学職員、会社員ら八人。神戸市灘区山田町三、神戸学

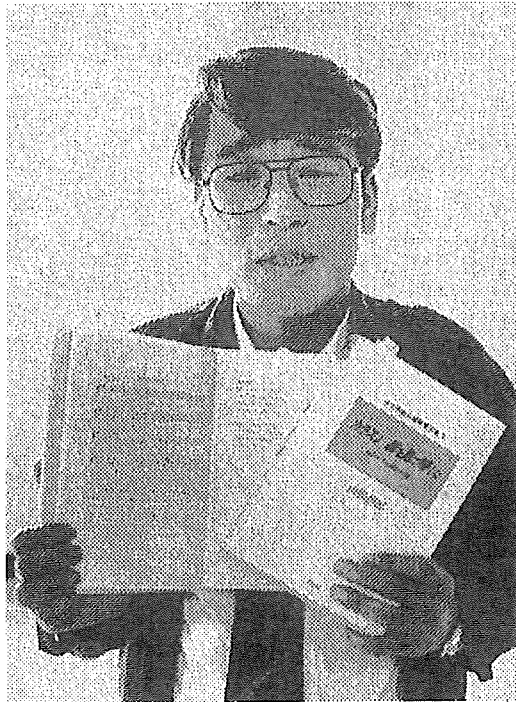
四月、GHQによる朝鮮人学校閉鎖に反対する朝鮮人約六千人が県庁に押し寄せた神戸事件があったが、従来の在日朝鮮人史研究では、GHQ側資料が欠けていた。

金さんは「現在の在日朝鮮人問題の原因は、終戦直後のGHQ政策。それを研究するため、国会図書館のマイクロ資料を活用したが、欲しい資料を探すのに苦労しただけに、貴重なマイクロ資料の利用案内にも心を砕いた」と話している。同会は今後五年間に計二十冊の出版を予定。「商業ベースに乗りにくい専門的な内容の本の出版をあえて続けたい」としている。

「GHQ文書研究ガイド」

はA5判、百二十九頁、定価同センター(電〇七八ー八価千三十円。問い合わせは「五一二七六〇」へ。

朝鮮の民族解放歌謡 神戸の山根さん出版



朝鮮半島で歌われた解放歌謡を一冊にまとめた山根さん＝尼崎市内

GHQ資料きっかけに

第二次大戦が終わった直後の朝鮮半島で、活発化した左翼系運動家たちが口ずさんでいた歌を集めた「カラスよ飛を見て啼くな」(A6判、四百三十三頁)が、尼崎市職員工山根俊郎さん(三三)に神戸市灘区友田町四〇の手に出版された。連合国軍総司令部(GHQ)の記録文書を基に、歌詞を翻訳、解説しており、極めて珍しい資料集になっている。山根さんは「今では、現地でも知られていない歌も多い。歌を通して、現代史の証言として参考にしてもらいたい」と話している。

「現代史の証言です」

山根さんは、昭和四十九年に初めて韓国を訪問。その際、動いている「むくげの会」に七年に、「むくげの会」のメンバーで共同執筆した「朝鮮の文化や歴史の研究」を渡している。一九三〇年代研究に「日帝下の朝鮮歌謡曲史」と題し、Qのマイク写真、朝鮮半島神戸市内の神戸学生青年センター朝鮮語講座の受講を始め、葉を覚えやすい」と、朝鮮歌、植民地時代の悲哀の歌などを、戦前から半島が分断され

ハンゲルと 日本語併記 随所に喜び発露

までの間、左翼運動家たちが盛んに歌っていた「人民解放歌謡」が載っており、早、翻訳と他の文献を参考に、三十二曲。このほか、日本でもなじみの「メーデーの歌」「ワルシャワ労働者の歌」なども掲載した。収録したのは一九四五年八月十五日の日本の敗戦直後の、民族解放の喜びをテーマにした「解放の歌」や「解放の歌」を併記。また、どの地方で歌

戦士の歌から、その後の「建った曲か、などの説明も添えた。本の題名は、「追悼国作業歌」や「人民の国」な歌の一節から引用したが、戦後復興に向けた歌まで全歌の二節から引用したが、山根さんは「数々の歌から当時は左翼運動の勢いが感じられる。解放の喜びが詞やメロディーにじみ出ています」と話している。「カラスよ飛」は長征社出版で定価四千五百円。

焼ぎ肉やキムチなど、ニンニクとトウガラシという強烈な香辛料で調理した朝鮮半島（以下、半島の総称として「朝鮮」と表記）の料理は、素材が持つ微妙な味を生かす和食とは、正反対のイメージがある。その一方、腹物を脱いで座敷に座り、おぜんで食事を取る風俗は、世界中で日本と朝鮮にしかないといわれる。日朝両文化に影響を与えてきた中国では、この作法とは異なり、いすに座り一つの食卓を囲むのが伝統。一体、日本と朝鮮の食文化は、似ているのか似ていないのか。神戸市東灘区に住む在野の研究者がこの疑問に挑み、成果を「朝鮮の食と文化―日本・中国との比較から見えてくるもの」と題した著書にまとめた。意外にも、対立点より圧倒的に深い近縁性が浮かび上がった。

(山崎 整記者)

在野の研究家、佐々木道雄さん

朝鮮の食と文化」発刊

佐々木道雄(本名・道淵 鮮文化へ。神戸学生青年セ
信雄)さん含む。岩手県盛 ンターに五年近く通ってハ
岡市に生まれ、山形大で化 ングルもマスター。十数年
学を専攻、大手電機会社 前からは専門書も読みこな
勤めながら、一九七七年か せるまでに上達した。

例えば「梅干しと日本人」

例えば「梅干しと日本人」

朝鮮、中国では蛸は食べな

「タコは日本、朝鮮、中
われるのは周知の事実」

グチ、牛、豚、豆腐、ムツ
された。反対に、典型的な

ら「むくげの会」に所属し、「日本人としての自分」が主として朝鮮の民俗文化を研究。『朝鮮一九三〇年代』(三三書房)などの著書を通じて見ることにした。

共著もある。

ところが当時、日本語で

佐々木さんが文化人類学に興味を持ったのは大学時代に、「菊と刀」で知られるベネディクトの「文化の型」に接してから。二十年ほど前の韓国旅行後、関心が朝鮮の食文化を体系的に書いた本はほとんどなく、研究の手立てがなかった。そこで、苦勞して習得したハングルが威力を発揮。原書を讀むうち、日本で出版さ

など数多くのベストセラーを生み出した樋口清之・国学院大名誉教授が書いたこ
んなくだりだ。「世界で蜚

い」「鳥賊(イカ)はギリ
シャとスペインの二地方だ
けで、全国的に食べるのは
日本だけである」。

2 食品

そして「西洋偏重思考によったばかりに日本の姿を見誤った。東アジアを知らない人が、世界の中の日本

や日本では古くから主要な食品であったことを数々の資料で示す。しかし、両文化の間で古さや元祖の競い合いのようになっていた現状には、あくまで冷静に「朝

佐々木さんが、そう訴えながら「朝鮮の食文化」を
探る「ち見えてきたのは
「日本は孤立した文化を持
つ国などではなく、近隣の
国々、中でも朝鮮との深い

海苔など24食品を分析

誤った常識を覆す

共著もある。

佐々木さんが文化人類学 朝鮮の食文化を体系的に書
に興味を持ったのは大学時
いた本はほとんどなく、研

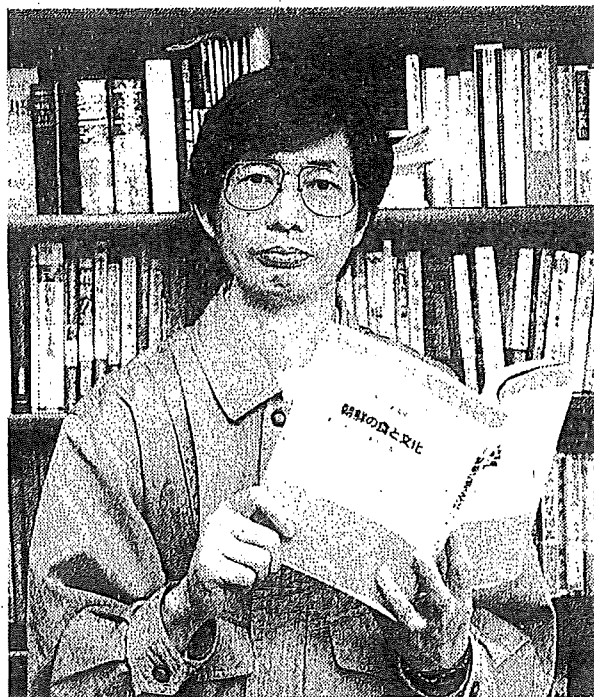
海苔な

ど
24
食
品

を分析

樋口説を退けるため、朝鮮でもらいたい」
や日本では古くから主要な 佐々木さんが、そう訴え
食品であったことを数々の なから「朝鮮の食文化」を

わ
る
ち
や
あ
瓦
版



「朝鮮の食と文化—日本・中国との比較から
見えてくるもの」を書いた佐々木道雄さん—
神戸市東灘区の自宅

文化研究の日本での第一人者である鄭大聲（チヨン・デソン）滋賀県立大教授の
ように、母国文化のべつ視
感を払しょくしようとする
あまり、ナシヨナリズムが
頭をもたげ、朝鮮の優位性
を強調、結果として、日本
文化との深い関係を見えに
くくってしまった例もある
という。

それほど、東アジアの食
文化の中で、日本・朝鮮・
中国が占める位置を冷静に
明らかにした研究は皆無に
近かったのである。

「海人族が東シナ海を渡り、
朝鮮の南部や日本にやって
来て潜水漁法や海藻文化を
もたらしたと思われる」と
の結論を導く。

ともすれば、ナシヨナリ
ズムに毒される危険のある
食文化研究を沈着に進める
一方、解明できなければ無
理な結論を急がない。「白
菜」の項では、明白な誤り
を正しつつ諸説を紹介しな
がらも、納得できなければ
「日本と朝鮮の関係は明ら
かとは言えない」と潔く棚

上げるのである。

る」と批判する。と考えるのは不自然。…養
これとは逆に、朝鮮の食 殖法や抄製法の技法の伝来

일본 시민들의 한국 연구 30년 ‘무궁화 모임’

평범한 일본 사람들 “억압받는 재일 한국인 역사·한글 공부하자” 1971년 발족
고대 한일관계사·음식문화·조선 민중운동사·대중가요 등 다양한 분야 실증 연구



30년간 한국을 연구해 온 일본의 시민단체 ‘무궁화 모임’의 회원들

교토(일본)=이정희 교토소세대 교수(hwsan@hanmail.net)

일 본 고베(神戶)시에서는 30여년 간 한국, 북한, 재일 동포를 연구해 온 순수 시민단체 ‘무궁화 모임’이 있다. 최근 ‘무궁화 모임’이 모임 장소로 이용하는 고베 시 나다(灘)구 고베학생청년센터를 찾았다. 중년 남성 회원 8명이 환한 얼굴로 맞이해줬다. 그들은 보통 일본인과 달리 곧잘 농담을 하며 화기에애한 분위기를 연출하면서도 자신들의 활동이 처음으로 한국에 알려진다는 것에 긴장하는 모습도 엿보였다.

모임의 대표를 맡고 있는 히다(飛田雄一·52)씨는 “동료와 이 모임을 시작할 때는 20대 초반의 젊은이였다”면서 “그후 나의 30년 세월은 이 모임과 함께 했다고 해도 과언이 아니다”라고 운을 뗐다.

이 모임은 1971년 1월, 당시 한국에 대한 일

반인의 관심이 거의 없던 시대에 15명의 젊은이가 일본인의 입장에서 사회적으로 억압받는 재일 한국인의 역사와 한글을 함께 공부하자는 취지에서 발족했다. 그래서 모임의 이름에 식민지하 조선에서 저항운동을 상징하던 꽃인 무궁화를 넣었다. 발족 당시의 회원은 히다씨를 비롯해 3명만 남았고, 나머지 5명은 그후 참가했다. 이 모임은 그후 연구 영역을 한민족의 역사, 문화 등으로 확대했다.

한동안 매주 화요일 ‘연구모임’

‘무궁화 모임’은 출범 때부터 1995년 1월 고베 대지진이 발생하기 전까지 매주 화요일 연구회를 가졌다. 그후 월 2회로 줄이긴 했지만 쉼 적이 없다. 사실 대학 연구자도 30여년 간 월 4회 혹은 2회의 연구회를 빠지지 않고 계속 한다는 것은 쉬운 일이 아니다.

게다가 회원은 모두 직장인이다. 이들은 직

장 생활의 여가를 활용해서 연구활동을 하고 연구회를 통해 그 연구의 깊이를 심화시키고 있다. 이들은 ‘무궁화통신’이라는 뉴스레터를 통해 자신들의 연구 결과를 발표하고, 이를 정리해서 책으로 출판한다. 이 통신은 26쪽 분량으로 격월로 발행되며, 고베 대지진 때를 제외하고는 발행을 멈추지 않았다. 올해 1월까지 196호가 발행되었으며, 발행 부수는 550부다.

1977년 대기업 사원일 때 가입한 사사키(佐木道雄·55)씨는 “유럽의 경우 이웃나라의 문화를 공부하는 것은 당연한 것으로 받아들인다고 들었다”며 “이웃나라인 한국의 문화를 알고 역으로 일본을 알기 위해 이 모임에 가입했다”고 한다. 그후 그는 한국인의 삶과 민속 문화에 대해 연구를 시작, 특히 한국을 중심으로 한 동아시아의 음식문화 연구에 심혈을 기울이고 있다. 그는 송이버섯을 그 대표적 예로 들었다.

“일본인은 송이버섯 요리를 일본의 독특한 음식문화로 여긴다. 14세기에 쓰인 이색의 목은집(牧隱集)에 시의 제목으로 송이(松茸)가 등장하는데, 일본에서도 송이버섯이라 할 때는 이 한자를 사용한다. 17세기와 18세기에 나온 일본의 사전은 동의보감에 나온 ‘버섯 중의 제일은 송이’라는 기술을 그대로 인용하고 있다. 중국의 문헌에 송이가 처음으로 등장하는 것은 1912년으로 최근의 일이다. 따라서 송이버섯이 버섯 중의 왕이라는 생각은 한국에 그 기원이 있으며, 그것이 일본과 중국에 전해진 것으로 보인다. 이처럼 송이버섯 하나만 봐도 한·중·일 간에는 음식문화의 상호교류가 있었다는 것을 알 수 있다.”

현장 조사·자료 통해 구체적 연구

사사키씨는 이처럼 음식 재료를 가지고 동아시아 3국의 음식문화를 비교하고 그 속에서 3국간 문화의 접점을 연구한 책을 2권 발간했다.

세관에 근무하는 데라오카(寺岡洋·61)씨는 전문가도 어렵다는 고대 한일관계사를 연구하고 있다. 그는 “고대 한일교류사를 연구하면 어느 한쪽이 일방적으로 문화를 전해 주었다기보다는 교류가 밀접했다는 것을 배우게 된다”며 “일본의 유적을 탐사해 보면 일본은 한국으로부터 통치와 국가운영 방식 등 폭넓게 문화를 받아들였다”고 말했다.

창단 멤버인 호리우치(堀内稔·55)씨는 식민지 시기 조선과 일본에서 일본에 대해 펼친 조선 민중의 운동사를 정리하고 있다. 1998년 출판한 ‘효고(兵庫)현 조선인 노동운동사’는 1905년부터 1945년까지 4개 신문의 기사를 읽고 정리한 것으로 집필에 걸린 시간만 8년이다.

그냥 한국이 좋아서 이 모임에 가입했다는 야마네(山根俊郎·51)씨는 ‘무궁화 모임’에서 줄곧 남북한 대중가요를 연구해 왔다. 연구하는 대중가요는 일제시대부터 최신 가요까지 다양하며 이를 총 정리하고 있다. 그는 매일 케이블방송을 통해 한국의 방송을 시청하고 매년 한국을 방문하여 가요방에서 최신 가요를 배운다. 가장 좋아하는 노래는 조용필의 ‘돌아와요 부산항에’. 그

는 좋아하는 노사연의 히트곡 ‘만남’에 대해 이렇게 말한다.

“‘우리 만남은 우연이 아니야. 그것은 우리의 바람이었어...’ 이 가사에서 느끼는 것은 한국인의 솔직함이다. 일본인은 아무리 좋아도 말하지 않는 게 미덕으로 받아들여진다. 그러나 한국인은 좋은 것은 좋다고 솔직하게 표현하는 경향이 있다. 그 극단적 예가 이 가사가 아닐까 싶다. 개인적으로 한국인의 솔직함은 자신의 마음을 솔직하게 드러내는 데 있다고 생각하고 있다.”

이들의 연구는 매우 구체적이다. 대학 연구자들이 지금까지 손대지 않았던 연구 영역을 중요 자료와 현장 조사 등을 통해 개척해 왔다. 호리우치씨는 “대학교에 근무하는 연구자도 우리의 연구를 인정해 준다. 구체적인 연구인만큼 그들의 연구에 많은 도움을 주고 있다고 할 수 있다. 그들과는 상호대립적 관계가 아니라 상

**“송이버섯이 버섯 중의 왕이라는 생각은
한국에 그 기원이 있으며,
그것이 일본과 중국에 전해진 것으로 보인다.
이처럼 송이버섯 하나만 봐도
한·중·일 간에는 음식문화의 상호교류가
있었다는 것을 알 수 있다.”**



회원들이 출판한 책자와 자료집

호보완적 관계에 있다”고 강조한다.

이런 만큼 이들은 자신의 연구에 대한 자부심도 대단하다. 사사키씨는 “한국의 음식문화를 연구하는 전문가는 있지만 나처럼 포괄적으로 음식문화를 가지고 한일문화에 접근한 사람은 없다”라고 말했다. 데라오카씨도 “처음에는

교토(京都)에 가서 대학교수로부터 지도를 받았지만 오히려 지금은 그들의 모임에 초청받아 갈 정도”라며 자신만만해 했다.

매달 5만여원 회비로 운영

‘무궁화 모임’은 회원만의 폐쇄적인 모임이 아니다. 대학 연구자, 재일 한국인 사학자는 물론 한국의 연구자와도 교류를 하고 있다. 특히 지금까지 이들의 연구회에 초청되어 강의를 한 한국인은 고은·황석영·박원순·리영희·안병직·박홍규씨 등 유명인사들이 많다.

이 모임의 운영은 외부의 도움없이 철저히 회비에 의존한다. 회원은 매월 5000엔(5만여원)의 회비를 낸다. 일반 모임의 보통 회비가 500~1000엔인 것과 비교하면 꽤 많은 편이다. 이 회비는 외부인사 초청 강연료, ‘무궁화통신’

발행비, 출판보조금 등으로 사용된다.

직장인으로서 이같은 활동을 지속한다는 게 여간 어려운 것이 아니다. 시청에 근무하는 야마네씨는 “이 모임을 통해 배운 한국어가 큰 도움이 된다. 근무처에 한국에서 손님이 오면 내가 통역을 전담한다”며 “이 활동과 직장 일이 서로 배치되는 것은 아니다”라고 강조했다. 데라오카씨는 “처음에는 집사람이 이 활동을 잘 이해해주지 않았지만 하나하나 연구 성과를 올리면서 지금은 적극적으로 지원해 준다”라고 했다. 사사키씨는 최근 개인사정으로 직장을 그만두었다. 그러나 그는 “새로운 할 일이 나를 기다리고 있어 앞으로의 인생이 전혀 걱정되지 않는다”며 “이 모임활동이 여생을 더욱 의미있도록 만들어 줄 것”이라고 확신했다.

이 모임에도 문제가 없는 것은 아니다. 회원 모두가 50세를 넘은 고령화로 이들의 활동을 이어나갈 후배가 없다는 점이다. 히다 대표는 “그래도

억지로 후배 양성을 하지는 않을 생각”이라고 말했다. 그는 “우리 모임이 없어지더라도 지금까지 우리들이 해 온 활동과 이를 기록한 책이 후세에 읽혀지고 알려진다면 그것으로 만족한다”면서 “회원 모두가 이 세상을 떠날 때까지 이 활동은 지속될 것”이라고 힘주어 말했다. □

朝鮮文化草の根で研究

「むくげの会」40周年

15日に記念パーティー

戸生 学センター
神青 年

朝鮮半島の歴史や文化を学ぶ市民サークル「むくげの会」が今月、結成から40周年を迎えた。神

戸学生青年センター（灘区山田町）を拠点に、団塊の世代約10人が中心になつて草の根の研究を続けてきた。15日には「2回目の成人式」と題し、記念パーティーを同センターで開く。

同会は「ベトナムに平和を―市民連合」（ベ平連）に参加していた若者を母体に、1971年1月に結成された。当時はハングルを学ぶ市販本がほとんどなく、ガリ版刷のテキストや音楽レコードで言葉を学び、歴史をひもといてきた。

主な活動は月に2回、研究発表をする例会と、

隔月発行で243号に達した「むくげ通信」。会員が追いかけるテーマは、神戸港で朝鮮人や中国人が強制的に働かされたことがどのように報じられたかや、韓国の民謡が同国内で見直されていること、キムチなどの食文化―と幅広い。これらの記事を基に約10冊の書籍も生み出された。

代表の飛田雄一さん（60）は「創立当時は朝鮮半島への偏見が強く、日本人中心のサークルは珍しかった。ここ数年、韓流ブームで興味を持つ人が増えたのは喜ばしい。これを機に、若い会員を増やしたい」と話している。

15日は正午から。会費3千円。同センター ☎ 078・851・2760

（直江 純）



創立以来、飛田さんらが発行し続けている「むくげ通信」は243号に達し、書籍にもなった。神戸学生青年センター

神戸新聞 2011.1.13



내리키와 아이의
서울 산책

영화 '1987'을 보고 일본도 이렇게 뜨거웠던 시절이 있었나 생각했다. 아마도 60년대 전후가 시민운동이 가장 활발했던 시기였을 것이다. 내가 태어나기 전의 일이라 부모님께 얘기를 듣거나 책과 다큐멘터리를 보고 아는 정도이지만 미·일 안전보장조약에 반대하는 안보투쟁이나 베트남 전쟁에 반대하는 운동 등 평화를 위한 운동이 많았다. 한국에서 대통령 직선제를 쟁취한 87년 6월처럼 눈에 띄는 성과는 일본에서는 없었던 것 같다. 70년대 이후 시민운동은 그 열정을 잃었다고 봐야.

그러면 오히려 일본에 돌아가 만난 두 사

람을 통해 그렇지 않을 수도 있다고 생각했다. 한 사람은 '무궁화회(むくげの会)'의 히다 유이치(栗田雄一) 씨. 무궁화회는 71년 결성된 시민 모임이다. 남북한이나 재일 한국인 관련 연구를 해 왔다. 히다씨는 그 창설 멤버이다.

이전에 그를 만난 건 내가 다니는 동국대 일본학연구소와의 연구 협조를 부탁하기 위해서였다. 무궁화회가 열리는 장소이자 히다씨가 관장으로 있는 고베 학생청년 센터는 내가 다니던 고베대 근처에 있었다. 한국에 관심이 생기기 시작한 나는 무궁화회에 가끔 갔다. 무궁화회는 한달에 두 번 모임을 열었고 게스트를 초청해 강연할 때가 많았다. 멤버는 10명 정도로 소규모였지만 유명인사들도 강사로 초청됐다. 박원순 서울시장도 시장이 되기 전 강사로 왔었다.

가깝게 지내면서도 무궁화회가 어떻게 시작됐는지는 이번 인터뷰에서 처음 알았다. 창설 당시 히다씨는 베트남전쟁에 반대하는 시민운동가였다고 한다. 그 활동 중 통해 전쟁이나 인권에 대해 생각하게 돼 재일 한국인 문제에 눈을 뜨리게 됐다. 차별이 심한 시절이었다. 무궁화회는 그 차별 해소를 목표로 재일 한국인을 포함한 남북한 관련 연구를 하는 모임으로 시작하는 것이다. 멤버는 대부분 일본 사람이지만 간절으로 의심 받거나 '빨갱이' 소리를 듣는 등 여러 편견에 시달려야 했다. 그런데도 "줄거렸다"고 한다. "나에게는 무궁화회가 창춘 그 자체였다"고 소년 같은 맑은 눈으로 얘기했다. 베트남전쟁이 끝나

도 전쟁에 반대했던 그 열정을 무궁화회에

서 이어갔던 것이다. 또 한 사람은 오사카에서 영화 배급이나 홍보를 하는 '키시노키네마' 사의 대표 키시노 레이코(岸野レイコ) 씨다. 한국영화의 배급과 홍보를 맡을 때가 많아서 신문 기자 시절부터 자주 만났다. '이바라키 의 여름'(전성호감독)이라는 오사카 소재 한국계 민족학교(건국고) 얘기를 다룬 다큐멘터리도 키시노씨가 배급과 홍보를 맡았다. 건국고는 전국 고교종합문화제 향토예능 부문에 매년 오사카 대표로 출전하는 학교다. 한국의 전통예능으로 오사카 대표가 되다니 놀라운 일이 아닐 수 없다. 그러나 오사카에 재일 한국인이 많은 것을 생각하면 자연스러운 일일 수도 있다. 다큐멘터리를 극장에서 상영하는 것 자체가 어려운데 키시노씨는 "이 영화

를 일본사람들에게 보여주고 싶다"는 생각에 적자를 각오하고 배급과 홍보를 맡았다고 한다. "나는 영화를 통해서 세계 평화에 도움이 되고 싶다"고 망망하게 말하는 키시노씨도 히다씨와 같은 세대다. 역시나 베트남전쟁에 반대하는 운동에 참여했었다고 했다. 전쟁 후의 베이비붐 세대로 전쟁을 되풀이하면 안 된다는 뜨거운 마음이 있던 세대다. 그 열정이 차세대로 이어가지 않았다는 것이 일본의 안타까운 현실이다.

키시노씨는 '1987'에 대해 "일본에서는 요즘 나오기 힘든 영화다. 특히 일본의 젊은 세대는 자기 주변 일 외에는 관심이 없다"고 말했다. '1987' 같은 영화가 만들어지고 흥행하는 뜨거운 한국이 솔직히 부럽다.

일본인 저널리스트(동국대 대학원 재학중)

2018.1.20. 中央日報